

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01170401053		
法人名	株式会社アイケア北海道		
事業所名	グループホームアイケア手稲		
所在地	北海道札幌市手稲区富丘2条6丁目2-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成26年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の残存能力を活かす、または維持していけるような支援を心掛け実施しています。特に排泄面では安易にオムツやリハビリパンツを使用せず、利用者様一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けにてトイレに行って頂き、トイレで排泄出来るよう支援しています。また、車椅子を使われている利用者様で多少でも歩行が可能な利用者様には、なるべく車椅子を使用せず椅子に座って頂いたり、筋力低下にならないよう手すりを使った立ち上がり運動や足上げの運動をするなど支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani%2Fue&JigvosyoCd=0170401053-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、手稲駅東方向へ徒歩圏内の商店街通りに面した閑静な住宅街に位置して、利便性に恵まれている。2階建て2ユニットの建物で、玄関右にエレベーター、左に階段、事務室がある。正面のドアを開けると明るいフロアが広がり、利用者が手作りした作品や季節の飾りが掲示され、採光や風通しのよい居間がある。居室は、室温や湿度を管理しており、快適に過ごせるよう配慮している。運営法人は、道内外に介護事業を広く展開しており、ノウハウの共有やグループ内の人事異動もある。職員は理念である「目配り、気配り、心配り」を基本に声掛けなどの独自ルールを作り、人格を尊重したケアに日々取り組んでいる。年2回の避難訓練や町内会行事など地域の方との交流も日常的に行われており、地域に根差した事業所として今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員が理念を把握し、実践に繋がられる様努めています。	理念はグループ共通の「目配り、気配り、心配り」で事業所内各所に掲示し、また、職員の名札裏に明記して、月1回の会議で検討しながら、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加したり、子供会の方々と交流している。	町内会の回覧板に事業所の行事予定を掲載するなどして、町内会の祭りや子供会のハロウィンの行事に参加するなど地域との相互の交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流が有る時には、地域の方々に認知症の事をお話しよう心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、地域の方々に参加して頂き日頃の情報や話し合いを行い、助言を頂きそれを活かせるよう努めています。	運営推進会議は、諸事情により、昨年12月から定期的に開催しており、包括センター職員や地域代表・家族などが参加し、運営状況の報告や意見など聞きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、都合により一時休会していたが、昨年末より再開し、推進委員から意見や要望など聞き事業所の運営に活かしているが、家族の参加や議事録の家族への配布など、定期的な運営推進会議の開催を今後も期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の管理者会議や市の集団指導に参加し相談や助言を頂くよう努めています。	空き室状況の報告など定期的に行い、また、地域の管理者会議などへ参加して、協力関係の構築に努めている。	運営推進会議以外にも、区担当者・包括センター担当者などへ運営状況の報告や相談を随時行い、関係構築にさらに取り組むよう期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをカンファレンス会議にて職員と検討し方向性を決め、取り組みを行っています。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、身体拘束をしないケアの独自のルールを作成して、声掛けや接する態度など職員と検討しながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し学ぶ機会を設け、また学んできた事を会議等にて話し合いを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は学ぶ機会が無い為、今後研修等に参加し学ぶ機会を得られる様努めて行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者と共に重要事項などの説明に時間を掛け事業所の取り組みなども詳しくお話しさせて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望、苦情等が有った場合は早急に職員と話し、発生原因を探り慎重に対応しサービスの質の向上に活かせるよう努めています。	玄関に意見箱の設置や家族の面会時の聞き取り、グループ本部でのアンケート調査を行うなど利用者や家族等からの意見を聞き運営に反映している。	意見箱の設置やアンケート調査による利用者・家族等の意見を聞く機会は今後も継続することを期待したい。また、運営推進会議議事録や利用者の生活状況のお便りなど家族への報告も定期的に行う事を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア一会議や普段の業務時にも職員一人ひとりと話す時間を作り反映出来る様努めています。	月1回ユニット会議やリーダー会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会として、運営に反映している。また、個人面談は、必要に応じて随時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価制度が導入され、更に発展させて行きます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員で共有出来るよう研修内容を報告する機会を持つよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域会議に出席し交流する機会を作り、職員は他事業所との交流会などに参加していますが少ない為、交流する機会を増やして行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	心配事が無いかをご本人様にお聞きし、話をすることで向き合いご本人に受け入れて頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様ともお話しする事で向き合い、少しでもご家族様の不安や要望に耳を傾け受け入れて頂ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様と相談や話を繰り返す事で、信頼関係を築きながらサービスを提供出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様、ご家族様より、以前の様子なども伺い以前されていた事なども取り入れたケアを考え関係を築く様努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方により面会に来られない家族様にご本人様の様子を手紙や電話等でお話しさせて頂いています。また、面会に来られたご家族様には日々の生活や体調面などのお話しもさせて頂き、ご本人様とは居室でお話し出来るよう配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行かれる利用者様や、お友達が尋ねて来られる入居者様もいらっしゃるの、継続し関係が切れない様努めています。	地元出身の利用者は少ないが、馴染みの美容院や近所のスーパーなどの利用があり、友達・家族の来所もあり、地域の方の交流もあり、関係の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様一人ひとりの状態を把握し職員を通じて利用者様が関わり合いコミュニケーションをとって頂いたり、日々のレクに参加して頂く事で孤立しないよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡しやすい状況を継続出来るよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話からご本人様の希望や意向をお聞きしたり、意思疎通が出来ない利用者様はご家族様から情報をお聞きし、職員で検討している。	アセスメントで確認し、家族から聞いたり、日常的な行動で働きかけて、その反応で確認して把握するなど本人の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまでの生活環境を伺い把握出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師とお話しし、意見やアイデアを組み入れ介護計画に反映出来るよう努めています。	本人や家族の意見や訪問診療の医師の意見などを聞き、職員全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を把握し、カンファレンスで意見交換をすることでモニタリングを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせ、柔軟な対応をするよう心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容・ヤクルト訪問販売を利用したり、行事には町内会の方々に参加して頂けるよう声を掛けるなど、地域資源の利用に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月に2回往診に来て頂いており、また急な体調変化にも対応できるように24時間の連絡体制を整えています。	かかりつけ医へは、職員同行にて受診し、受診内容は家族へ報告し共有している。また、看護師が今月から常駐するため、今後は看護師が中心となり対応する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活状態の変化に気付きかかりつけ医の看護師や訪問看護師に健康状態を報告しその後のケアについても相談を行い、連携が図れるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院の医師や看護師と連絡を取り、情報交換を行うことで連携を図るよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	医師の指示のもと、職員全体で情報を共有し、ご家族、医師、看護師で看取りについての話し合いを行っています。	重度化や終末期の対応については、契約時に説明している。重度化の状況に至った場合は、医師の指示の下、職員全体で情報を共有して、家族・医師・看護師と話し合いながら医療連携で、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア内に緊急時対応マニュアルを設置しています。また、訪問看護師より緊急時の対応について指導して貰い会議等で報告しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと昼間、夜間想定避難訓練を行い、町内会にも協力して頂けるような体制を整えています。	消防署の指導の下、地域の方や家族が参加して、夜間想定など年2回避難訓練を行っている。緊急通報は町内会長へも繋がるなど地域の方との協力体制が築かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、その人にあつた声掛けやプライバシーを損ねない対応が出来るよう日々職員同士話し合いをしています。	声掛けや呼びかけなどについての独自のルールを作り、職員全員で人格の尊重やプライバシーを確保するケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の言葉に耳を傾け、希望に添えるようカンファレンスで話し合い自己決定出来るような支援をするよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでは無く、利用者様一人ひとりのペースに合わせてくれるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで頂いたり、洋服が汚れた時は着替えをして頂くよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は利用者様と一緒に食事作りをしていたが、現状のADLでは困難な為、食器拭きやテーブル拭きなどをして頂いています。また、行事の時などは好みの物をお聞きし、提供しています。	メニューはグループの栄養士が作り、月1回の訪問時に献立への意見を提出する。職員も同席同食で、一緒に楽しく食事している。また、利用者は、食器やテーブル拭きなど職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成のメニューにて実施しています。また、水分量は利用者様の好みに合ったものを提供し目標の水分を取って頂けるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一部介助にて実施しています。また、週に一度の訪問歯科治療も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレで排泄して頂けるよう誘導したり、ご自分で出来る事はして頂くなど自立支援にも努めています。	ひとり一人の排泄パターンを把握して、ひとり一人注意しながら、トイレでの自立した排泄への支援を行っている。特に、夜間以外はオムツを使用しないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のもと薬を使用したり、水分不足にならないよう対応し軽い運動をして頂くなどの予防にも努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時声掛けを行い、職員都合の入浴にならないよう努めています。また、入浴時には全身確認を行い、会話をしながら入浴を楽しんで頂けるよう配慮しています。	週2回以上入浴しているが、本人の希望の時に入浴できるよう配慮している。また、嫌いな方には、個別に工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムに応じた支援が出来るよう努めています。また、就寝時間帯、就寝後は見回り、巡回を行い、事故のないよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	錠剤の数や量、日付の確認をし、服薬の際には他職員と連携を取り、間違いの無いよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合ったパズルや計算問題・ぬりえなどをして頂いたり、好みの飲み物を飲んで頂き気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望に沿った外出支援が出来るよう意向を聞くよう努めています。	夏は近隣の散歩や玄関前の椅子での日向ぼっこ、夕涼みなどで外気を感じるよう努めている。また、町内会の行事への参加や職員と一緒に水族館や食べ放題店などへの外出計画もあり、日常的な外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはご自分で支払いの出来る方にはして頂くよう支援しています。飲み物等の購入が出来るよう少額なお金は所持して頂いている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話を希望された時などは、職員が取り次ぎを行い、お話しして頂くよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう、室温・湿度などに配慮し、フロアは季節感を感じて頂けるような飾り付け、レイアウトになるよう努めています。	採光や風通しもよく、利用者の手作りの作品や季節の飾りつけもあり、明るい感じの空間である。トイレや浴室もゆったりできる作りで、食堂・居間は、利用者が日中ほとんど居る程、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々がゆっくりとお話して頂けるように、フロアの座席配置に配慮したり、フロアでゆっくりお話ししながら過ごして頂けるよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にて安心・安全に過ごして頂けるよう馴染みのあるご自分の家具を利用して頂いたり、配置を工夫しています。また、使い慣れた品なども持参して頂いています。	室温や湿度に配慮しており、馴染みの家具や使い慣れたものを持参でき、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る事はやって頂けるよう危険のない範囲で見守りを行いながら支援しています。		